

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第4回 枚方市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成28年10月21日（金） 午後 2時30分から 午後 3時55分まで
開 催 場 所	枚方市市民会館 第1集会室
出 席 者	会長：高見委員 委員：岩井委員、齊藤委員、谷口委員、寺西委員、 西邨委員、浜田委員、福島委員、堀口委員
欠 席 者	副会長：木村委員 委員：荒木委員、佐藤委員
案 件 名	1. 開会 2. 枚方市スポーツ推進計画（素案）について 3. その他
提出された資料等の 名 称	○資料1 枚方市スポーツ推進計画（素案） ○参考資料 関連計画の概要等
決 定 事 項	・スポーツ推進計画（素案）に対する意見等を10月31日までに 事務局まで提出すること。 ・次回審議会開催日時は11月10日午後2時からとする。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	教育委員会社会教育部 スポーツ振興課

審 議 内 容

1 開 会

高 見 会 長： 挨拶

それでは最初に、本日の出席委員と傍聴者の報告とあわせて資料の確認等を事務局よりお願いしたい。

事 務 局： 本日の出席委員は、12名中9名に出席いただいている。枚方市スポーツ推進審議会条例第7条第2項に規定する2分の1以上の出席を満たしており、この会議が成立していることをご報告する。また、本日の一般傍聴者は現在のところいない。

資料の確認

高 見 会 長： 前回審議会では審議途中であった、枚方市スポーツ推進体制の現状と課題について、また事務局から推進施策について説明をいただき、フリーな形で各委員の皆さまにご意見等をいただいた。今回、第2回、第3回での議論を踏まえ、事務局で枚方市スポーツ推進計画の素案をまとめていただいている。各委員の専門的立場でご意見をいただきたいと考えている。

2 枚方市スポーツ推進計画（素案）について

高 見 会 長： それでは、案件審議に入りたい。事務局より説明願いたい。

事 務 局： 資料1に基づき説明

高 見 会 長： 委員の皆さまから何かあるか。読み飛ばされた部分も含めて、委員の皆さまの専門的見地からご意見等をいただければと思う。いかがか。

福 島 委 員： このスポーツ推進計画をベースに今後11年進められていくが、15ページの下図12のグラフの中で、24.6%を占めている「自分の健康や体力のレベルにあった運動・スポーツのやり方がわからない」というのは、今後スポーツを行う場合に問題になっていることが考えられる。39ページの「市民スポーツ活動の推進」の中で、「関係団体と連携したスポーツイベントやスポーツ教室の開催」といったベースがあり、この中で今後進められていくわけだが、10月10日体育の日にワンコイン500円で民間のスポーツ教室が大阪府立体育会館で開催されている。こういうものも参考にされると、色々なスポーツのきっかけがつかめていくのではないか。今後この中に落とし込めるのであれば、施策として取り上げていてはどうか。

事 務 局： 貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきたい。現

在の枚方市の取り組みをご紹介したい。10月10日の体育の日には、市民スポーツカーニバルということで、総合スポーツセンター、渚市民体育館、伊賀谷スポーツセンター、野外活動センター等でイベントをしている。体育協会等にご協力をいただきながら、無料の体力測定や卓球やバドミントンの無料開放、ニュースポーツの紹介等をしている。伊賀谷スポーツセンターでは、ティアモさんにもご協力をいただき、無料で子どものサッカー教室もさせていただいた。今のご意見も参考に、今後継続していきたい。

事務局： 良い機会なので、この計画の仕組みについて合わせて説明したい。第1回から第3回まで審議会があり、具体的な事業レベルのご提言も含めて、或いは大きな視点に関することも含めてご意見をいただいている。それらに配慮しながら計画を策定しているつもりだが、整理表でお示しできていないのでご質問等があればお答えしたいと思うが、基本的にこの計画は大きな全体状況を捉えて課題を出し、それに対してどういう方向で取り組みをやっていくのかというレベルで基本的な計画を書いている。前回も何が既存事業で、何が今後の取り組みの方向で新たにやっていくものなのかがよく分からないというご意見があった。できもしないようなことをたくさん並べてもというご意見もあったと思う。基本的にこの計画では課題毎にスポーツ施策の方向性を示して、既存事業に関しては後ろにお示ししている。毎年この方向性に則して既存の事業を見直して、充実しているかをチェックしていただくという仕組みで考えている。今ご提言いただいたような事業も、その受け皿としての方向性は数々の項目のところにある。例えば41ページの「スポーツを通じた健康づくり」のところでもあるし、若年層のところでもあるし、後ろのほうで身近な健康促進のところでもあると思う。そういう方向性に則した新たな事業をできる限り具体化し、また報告をさせていただくという形で進めていきたい。これまでにいただいたご提言も踏まえて、また今後振り返っていきたくて考えている。

高見会長： この推進計画ができた後、アクションプランを策定する計画はあるのか。

事務局： 通常、基本計画の下でアクションプログラムという事業レベルのものを体系化させた計画を作るパターンが多いが、スポーツに関わる事業が相当な範囲の中で各部署横断的にあるものなので、全ての事業を網羅的に計画で策定しようとする、そのためのプロセスと労力が大変という

こともある。この方向性に則して既存事業をまとめているので、年度ごとに各事業の部署が事務事業、既存の事業の点検評価をして、新たなものを作っていく。それを整理した形で報告させていただきたい。アクションプログラムという形式でまとめることはなく、既存のものがどのように評価点検されて、新しいものがどう具体化しているのかをお示しする。

高見会長： 他にあるか。

谷口委員： 前回も言ったが、43ページ一番下「地域スポーツの充実」の「取組の方向」の一番下「ニュースポーツの研究・開発」とあるが、開発は本当にできるのか。「紹介」のほうがいいのではないか。

高見会長： 市内のスポーツ推進委員で何か開発されたことはあるのか。

齊藤委員： スポーツ推進委員では8年ぐらい前にニュースポーツ部会を作り、今年の10月10日のスポーツカーニバルでも披露したが、「追っかけ玉入れ」を開発した。草津市や和歌山にも広げている。機会あるごとに披露して、小中学生、高齢者に参加して体験してもらっている。

高見会長： ニュースポーツの研究・開発は、色々なところが開発されている実績があると思う。

事務局： 第2回審議会で枚方市のシンボリックスポーツのようなものがあれば、地域が活性化するのではないかというご意見もあったので、「ニュースポーツの研究・開発」となっているが、言葉遣いで何か修正意見等があれば検討したい。全国的に定着しているニュースポーツでは、カーリンコンがある。協会を作って全国レベルのスポーツに育てておられるのは枚方の方々である。誰が研究・開発するのかという問題はあるが、大きな広がりを持つ手軽なニュースポーツを志向することは重要なことだと思っている。

浜田委員： 要支援が地域コミュニティの中で宙ぶらりんになっていて、来年4月から地域の元気づくりプロジェクトを進めていく。その中にひらかた体操や新しく簡単にできるようなスポーツがあればという話を事務局としていた。地域の老人クラブが集まって、グラウンド・ゴルフが盛んだが、普段出てこない人も一緒に出てきてできるような楽しいスポーツがあればよい。

事務局： キンボールという新しいスポーツを開発されたようだが。

高見会長： 摂津ではかなり盛んにされている。枚方でも是非。

齊藤委員： スポーツ推進委員協議会の中で、キンボールを貸し出ししている。技

術指導にも行っている。

浜田委員： キンボールと高見会長とはどういう関係なのか。

高見会長： 私は日本キンボール協会の理事長をしている。

齊藤委員： 地域のスポーツ推進委員によっては、自分のところに持ち帰る人もいれば、全く地域に取り入れられない人もいるようである。

高見会長： そういうスポーツもあるので、色々な楽しみ方がある。

谷口委員： それなら開発も目標に入れておいたほうが良い。

高見会長： 他にどうか。素案について何でも結構である。事務局にお尋ねしたい。市の第5次総合計画の中でスポーツによる市民の健康づくり等、そういうことに触れられている部分がある程度意識して、素案の中に盛り込まれているのか。

事務局： 本日お渡ししている参考資料の7ページに基本計画の施策目標が縦に1から28まで並んでいる。その中の17番目に位置付けられている。その具体的な内容については、15ページに「施策目標17」として「取り組みの方向」が記載されている。

事務局： 最後の黒丸が非常に包括的である。「誰もが気軽にスポーツに親しみ、年齢や興味または関心に応じたスポーツ・レクリエーション活動ができる環境づくりを進めます」ということで、本スポーツ推進計画の理念レベルの記載にとどまっているとご理解いただきたい。

高見会長： 他にあるか。

事務局： 前回の第3回審議会でもいただいたご意見との関係で報告しておきたい。以前、荒木委員からアンケート調査の取り扱いに関してご指摘をいただいた。回答者が高齢者にかなり偏っているということで、枚方市の人口構成と比べていびつになっている。アンケートを発送する時には人口構成に応じたサンプリングをして送っているが、回答・返送していただく段階で年齢構成にバイアスがかかっている。それをまとめて全体の状況と言うのは取り扱いに問題があるのではないかとのことである。最初に説明させていただいた7ページのアンケート調査の実施概要で、集計のところ、少し難しい書きぶりになっているが、母集団の年齢構成に比べて高齢者層に偏りがあるということで、再度抽出対象の年齢構成に合うように補正集計をしている。統計的には加重平均と言うが、そういう補正を全体集計に関しては加えている。そんなに大きく数字が変わるわけではないが、全体の指標になるスポーツに取り組んでいる数字等については修正がかかっている。それから、スポーツを通じた健康づくりは

福祉部署との関係で介護予防の切り口でスポーツが取り上げられることも多い。その際、縦割り行政で混乱もあるとのことだった。行政内部のことなので、計画の中で特に書き込みはしていないが、48ページの行政の役割の中では、関連する関係部署と連携してスポーツを推進するというに触れている。具体的なレベルで連携を強めるような仕組み作りを進めたいと考えている。それから、スポーツへのニーズが多様化していることを踏まえ、新規施設や既存施設の改修、土のグラウンドの芝生化等が必要ではないかという、施設整備に関するご意見もいただいている。スポーツ施設の環境の関係は45ページだが、なかなか一からスポーツ施設をつくるのは難しい状況であり、既存施設を長期間利用できるような維持管理とともに、施設更新時に多様なスポーツニーズに対応できるよう施設設備の計画的な改修・修繕を行うという方向で記載している。こういう方向性の中で具体化を検討していきたいと思っている。それから体育協会からラグビーのワールドカップや東京オリンピック等に向けた取り組みや、総合型地域スポーツクラブの役割という話があった。東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーのワールドカップが重なることについては、冒頭の状況のところでも一定触れるとともに、総合型地域スポーツクラブに関することは、47ページの中で打ち出している。併せて野外活動センターの学校利用ということでご指摘があった。これも項目として野外活動センターに関して43ページ④「野外活動センターにおける青少年の健全育成」で触れている。それから、スポーツ指導者の育成が課題ということだが、実態調査でもスポーツ指導者に関わる問題をかかなり浮かび上がらせている。スポーツ指導者を育成していくという方向については46ページに項目立てをしている。障害者スポーツに関してもご指摘をいただいた。大会やイベントのレベルではなく、根底の認識、ノーマライゼーション或いは障害の違いによって配慮する事項が異なるという話も含めて、44ページの(5)「障害者スポーツの促進」の中で基礎的なことに関して記載している。アンケート結果からもウォーキングというスポーツに対する志向も強く、公園や河川敷を利用されている方も多い。公園等の整備もしてはどうか、取り組み施策としての方向性が必要ではないかとのことである。その件に関しては、41ページ「スポーツを通じた成人の健康増進の推進」として載せている。土木部で公園をウォーキングに適した改修をする、或いは健康遊具を設置するという取り組みの具体化も検討されている。そういう中で事業を具体化して

いきたいと考えている。特に第3回を中心としたご意見に対しての計画記載に関して説明させていただいた。後程また説明するが、これをベースに残りの時間の中で様々なご意見をいただいて、加えるべき方向性等のご意見については、次回までに別途用紙かメールで頂戴して、修正作業をして次回審議会に臨みたいと思っている。

高見会長： 本日佐藤委員が欠席されているが、事前に事務局にご意見等は届いているのか。

事務局： 佐藤委員のご意見を紹介したい。現在は行政の各部署で独自に運動やスポーツ事業をしている。この度の計画にも少し記載はあったが、今後関係部署が連携し事業を進めると考えて良いのか。もしそうであれば、スポーツの総合窓口のようなものを設置していただきたい。設置にあたっては基本的な知識はもちろん、障害者に対して理解のある人材の配置が必要である。人材の育成にあたっては、手始めに講習会の実施等が考えられるが、計画の取り組みの方向として障害者への理解の普及について盛り込んでいただきたい。具体的に大会支援等の記載はあるが、もっと根本的な障害者に対する理解を深めることが今必要とされ、それが障害者スポーツの拡大に繋がると考える。もう一点、長居や舞洲、箕面等には障害者のスポーツ施設があるが、枚方においてもラポールなり総合スポーツセンターなりで障害者が気軽にスポーツに親しめるような施設の整備を行っていただきたい。メジャーな種目だけでなく、障害者にとって親しみやすいボッチャやペタビンゴのような種目にも対応し、気軽に親しめる施設の整備を進め、実現にあたっては先に述べたように障害者に対して理解を深めていくことが大前提となる。

高見会長： 障害者スポーツは、今回、基本法の中でもかなり入ってきている。それに合わせて、障害者の方々がスポーツにどう取り組んでいけばいいのか。枚方市も福祉関係の部署で実績があると思うが、縦割りになったものを上手く平らにして情報の行き来がスムーズになるかということだと思う。事務局から何かあるか。

事務局： 福祉部で障害者計画第3次改定版を策定しているところである。その中に障害者のスポーツということで、スポーツ・レクリエーション活動への支援という内容も含まれている。それとこちらのスポーツ推進計画と整合性が取れるように、きちんと連携が取れるように文言の修正等をしている。それと合わせて、一緒に市として進められればと考えている。

高見会長： 新しい取り組みになっていくと思うが、計画に盛り込まれて今後どう

なるのか。実際に具体化してもらえればと思う。他にあるか。佐藤委員のご意見の中にも、ワンストップと言うか、ひとつの窓口にならないのかというご指摘があった。

事務局： スポーツがある意味、横串のテーマで、それぞれの担当セクションがあり、その中でどういう相談窓口の作り方がいいのかはなかなか難しいところである。特に障害者スポーツで言うと、先ほど説明したように、スポーツ・レクリエーション活動への支援というのが大きな施策の項目としてある。障害者に来ていただきやすい窓口や相談で言うと、やはり障害者サービス、福祉に関するセクションがベースになると思う。障害者に対する様々な生活支援の中の1つの切り口としてのスポーツという部分で、基本的な窓口はやはり障害者部門だと思う。そこでスポーツに関する部門の展開をしめることは難しいので、スポーツ関係セクションとの連携をどう強化していくのか。或いは、方向性としてボッチャ等の障害者スポーツがメジャーになってきたので、そういうものの環境整備・体制整備をどうしていくのか。そういうものについては連携できる体制を構築することが、一番現実的な考え方だと思う。併せて審議会を設置して計画についてご検討いただいているが、行政内部で庁内委員会を設置して、この審議会で検討していただいた内容を行政部門にもフィードバックしている。それは、前回お示した地域や高齢者との関係でも連携ができていないというご指摘があったのと同じ次元の話で、障害者に関しても横の連携をどう取っていくのかが重要なので、ある程度はスポーツ振興課を中心としたスポーツに関わる連携協力体制を庁内でどう作っていくのが今後の課題だと考えている。

高見会長： 風通しが良くなり、情報が共有されて、市民の方々へのサービスに繋がるといいと思う。いかがか。

浜田委員： 先ほどの10月10日のスポーツのお知らせは、どういう形でしているのか。

事務局： 広報にも掲載して、ホームページにもあげている。チラシを作って各小学校に配布した。

浜田委員： コミュニティには回覧は回っていないと思う。

事務局： 子ども達には配布している。

浜田委員： そうするのは大事なことなので、コミュニティに回覧して欲しい。良いことはどんどん市民活動課に言ってもらって、回覧でもポスターでもお願いしたい。

3 その他

高見会長： その他について、事務局から何かあるか。

事務局： お手元に配布している素案ご意見修正等記入用紙に素案についてのご意見を記入していただき、10月31日月曜日までに事務局まで返送いただけるようお願いしたい。

事務局： 本日審議した素案について、再度持ち帰ってじっくりと見ていただき、お気付きの点があれば10月31日までにご意見をということである。

事務局： 明確にこれをこう変更という形でなくても、漠然としたご意見でも構わない。

高見会長： その他事務局から連絡事項等はあるか。

事務局： 次回第5回スポーツ推進審議会の日程を本日決めていただきたい。事務局案として11月10日木曜日午後2時からお願いしたいと思う。

高見会長： 提案された日程でいかがか。ご都合がある方は事務局までお伝え願いたい。会場については、後程事務局から各委員に連絡していただけたらと思う。次回が最終となる。

事務局： そこでまた議論が出て修正が必要となれば、最後の取り扱いは会長に一任していただければと思う。

高見会長： それでは、第4回枚方市スポーツ推進審議会を閉会したい。